

資料室だより 42

Music dedicated to the convents; 2 Motets for 3 voices by Sisto Reina

Artemisia edition (MC1/R364/1)

資料室だより 40 でアルテミシア・エディションによる女子修道院の音楽のシリーズを紹介しました。これも同じシリーズですが、修道女が作曲したのではなく、女子修道院あるいは特定の修道女に捧げられた音楽で、作曲は男性である修道士シスト・レイーナ Sisto Reina による “Dormis anima” と “Surge filia Sion” です。

レイーナは一応音楽史上に名を残していますが、生没年についての詳細は不明です。フランシスコ会の修道士で、1653年までミラノ近郊サロンノの修道院でオルガニストを勤めていたことがわかっています。その後、ミラノ、ピアチェンツァ、モデナの聖フランチェスコ教会で楽長やオルガニストの地位にあった、そしてこれらの教会で歌われるための小編成の宗教曲を残した、それらは当時の小規模教会のための典型的な楽曲であって同じフランチェスコ教会でもアッシジやパドヴァからの影響は受けていない、といったような記述が音楽辞典にはあります。

レイーナは作品の多くを、また作品集全体を音楽の才能ある修道女に捧げています。例えば「新しい教会の花束」と題されたモテット集 Op 1 はカンツの聖マリア修道院の歌手、ジネヴラ・フランチェスカ・カルカノとコモの聖マルゲリータ修道院のオルガニストマリア・チチェリに献呈されています。

ここに出版された “Dormir anima” (from Fiorita corona op 7) はボローニャのドミニコ会修道院のオルガニストであるエルミリア・カテリナ・マンツォーリに、もう1曲の “Surge filia Sion” (from Marsyae et Apollini, op 4) はカンツの聖アンブロジオ修道院のカンディータ・マリア・カンピに捧げられています。レイーナはこの修道女のことを「最も洗練されたオルガニストにして最も優秀な歌手」と呼んでいます。

アルテミシア・エディションは「眠る Dormis」で始まる曲と「起きよ Surge」で始まる曲を組み合わせたところがユーモラスです。Surge filia Sion は乙女の聖人のためのモテットで、ここではマリア・カンピの守護聖人にちなみ “O clara Virgo, O Maria Dei” という呼びかけになっていますが、他の聖女の記念日に合わせて、マルガリータ、カタリナ、ルチア、チェチリアなどに変えてもよいとされています。

2曲とも女声3部と通奏低音という編成です。Dormir,, を献呈したマンツォーリを讃えるソネットの一部がファクシミリで掲載されています。フランシスコ会の修道士が、ある特定の修道女をほめたたえる詩を書き、それを添えてモテットを献呈する。現代の私たちには考えにくいことですが、17世紀のイタリアでは決して特殊なケースではなかったようです。

(杉本ゆり 記)